

旧田代（たしろ）家西洋館の歴史

旧田代家西洋館は 1876 年に建てられた。2014～2016 年にかけて行われた復元工事の際に発見された木の板から、最初の建設日と最初の所有者である田代助作（たしろすけさく）（1890 年没）の名が判明した。以前は有田異人館（ありたいじんかん）という名称だったが、建築当初の姿に復元され、名称を改め、2018 年には国の重要文化財に指定された。

1700 年代に有田焼の輸出は大きく落ち込んだが、1850 年代に日本と西洋の貿易禁止令が解除されると、海外への輸出の新たなチャンスが訪れた。助作は田代紋左衛門（たしろもんざえもん）（1817～1900）の息子で、その紋左衛門は佐賀（さが）藩によって貿易を正式に許可された 2 番目の人物であった。1841 年にオランダへの有田焼の輸出を再開させた久富与次兵衛（ひさとみよじべえ）（1861 年没）の死去に伴い、紋左衛門はただ 1 人の有田焼公式輸出者となった。上海市場で家業の担当をしていた助作は、商談場所や海外の貿易商の宿泊場所として利用できる建物を有田に作ることにした。

建築当時、和洋折衷の建物は独特で最先端の建物だと考えられた。ロビーのらせん階段や窓ガラス、ドア枠、スタンドグラスなど、建築当初の特徴は今でもいくつか残っている。また、家紋を彫った版画を使って建築当時の壁紙が再現された。この壁紙は復元工事中に発見されたものである。その他に、2 階のベランダや建物全体の備品も復元された。